

〔百練抄順十二〕建保元年七月十六日、主上行幸三條坊門殿、十八日、主上還御閑院、

〔百練抄後十五〕寛元二年七月廿六日甲子、今夜遷幸閑院、中宮藤原同行啓、去仁治三年、四條院御

事之後、壞弃清凉殿代、更以新造、爲關東之沙汰、所令造進也、

〔百練抄後十五〕寛元四年三月廿五日甲寅、主上後深草行幸冷泉殿、中宮御同與後先被行小除目、中宮大

夫隆親卿參行之、

〔百練抄後深草〕正嘉二年三月九日、主上行幸中宮母后御所富小路殿、十日、主上御逗留院御所

有御鞠會、今夜還御也、

〔増鏡六〕正元元年三月五日、西園寺の花ざかりに、大宮院藤原一切經供養せさせ

給ふ、中其日になりて行幸後深草あり、

〔百練抄後深草〕正元元年三月五日、今日於西園寺爲被供養一切經、早旦中宮行啓、中午刻計上皇

御車御幸御堂、中次主上行幸、六日、今日於北山第、一切經供養翌日儀、御遊和歌御會等也、七

日、今日後宴儀、依雨俄延引、八日、一切經後宴、於北山第南庭舞樂、九日、院還御、於一條室町邊、被

立御車有御見物、先春宮、次行幸、

〔百練抄後深草〕正元元年八月廿二日癸巳、主上行幸五條大宮新造御所、依可有來廿八日東宮御元

服儀也、三十日辛丑、主上自五條殿還御富小路殿、

〔百練抄後深草〕正元元年十一月十五日癸未、主上自富小路殿、行幸萬里小路殿、内侍所同渡御、中宮

公同行啓、儀爲三公卿土御門新中納言已下六人供奉之、

○按ズルニ、此月二十六日、御讓位アルニ因テ、行幸行啓アリシナリ、

〔帝王編年記二十七〕正應四年正月二十日、神木春渡御木津、二月七日、天皇行幸常磐井殿、依神

木事也、藤氏公卿無供奉、